



感謝の心をもとに かかわりの中で自己を高める たくましい児童の育成

白山市立蝶屋小学校

校長 江戸 佳野

令和7年2月17日 後期学校評価号

日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、12月に実施いたしましたアンケート結果についてご報告いたします。ほぼ同じ時期に実施しました児童アンケートの結果や学校職員による評価と併せて、アンケートの結果をご報告いたします。この結果を、今後、子どもたちの育成に生かしていきたいと思ひます。アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

※回答は、「A：あてはまる」「B：ややあてはまる」「C：ややあてはまらない」「D：あてはまらない」から選択。
左表中の数値は、そのうちの「A」の割合（上段）と「A+B」の割合（下段）を示しています。（％）

1. 令和6年度 後期 学校評価結果とその分析と今後の取組

	重点項目	児童アンケート	A 値 AB値 (%)	保護者アンケート	A 値 AB値 (%)	教職員アンケート	A 値 AB値 (%)	分 析 と 今 後 の 取 組
共通	学校生活	学校は楽しい	53.2 92.5	お子さんは、「学校は楽しい」と思っている	54.9 94.9	子どもたちは、学校で楽しく過ごしている	42.9 100	9割以上の児童・保護者が楽しいと肯定的評価をしていますが、個別にアプローチが必要な児童もいます。引き続き、児童との対話や児童の内面把握に努めます。また、学習部・生徒指導部・特別活動部が連携しながら、全教育活動において児童が友だちとの絆を深め、物事を成し遂げる達成感を感じられるようにしていきます。
	自己肯定感	自分には、よいところがある	40.0 86.4	お子さんのよいところを、お子さんに伝えている	40.8 94.9	子どもたちの自己肯定感が向上するよう、努力や過程を認める声かけや児童同士の関わりを大切にした教育活動を行っている	71.4 100	教職員の評価に比べて児童の評価が低いのは、よいところを伝えていても自分が認められているという感覚が薄いことが考えられます。引き続き、「ほめて、認めて、励ます」ことで、物事を前向きに考えられるように支援していきたいと思ひます。また、スクールカウンセラーとも連携しながら、個に寄り添った対応に努めていきます。
確学 力 な 育 成	わかる授業	授業は、わかりやすい	54.7 97.7	お子さんは、「勉強は分かりやすい」思っている	28.2 86.3	ねらいを（育みたい資質、能力）を明確にした授業を行っている	42.1 100	今後、一時間ごとのねらいを明確にし、蝶屋モデルをベースにした分かる授業を実践していきます。特に、練習問題の時間を充実させて、児童が「わかった」「できた」と実感できるように工夫していきます。
	学び合い （説明する力）	相手の話を分かってあげようと聞いたり、相手に分かってもらおうとして話したりする	60.4 95.1			相手の話を分かうとして聞く、相手に分かってもらおうとして話す、など相手意識をもって聞く、話すの指導をしている	60.0 100	児童・教職員共に肯定的評価が高く、児童同士の学び合いを意識した授業改善が結果に結びついていると考えられます。児童が学び合いの中で課題を解決し、学び合いの良さを実感できるように、今後さらに説明する力を高めていきたいと思ひます。
	自己決定					児童が主体的に学ぶために、学び方を指導し自己決定の場を設定している	50.0 100	今年度、自己決定の場の工夫について学校研究の重点の一つとして取り組んできました。研究実践の中で、「何を使って課題を解決するのか」「どのような形態で学びを進めるのか」等、児童が自己決定しながら学びを進める授業が定着してきています。今後、自己決定しながら児童が主体的に学ぶ授業づくりを行っていきます。
	家庭学習	家庭学習は（1年：20分 2～6年：学年×10分）の時間、取り組めていますか	51.3 86.0	お子さんに家庭学習の時間（学年×10分）をとっている	28.2 69.4	児童が家で学年のめあての学習時間（学年×10分）の勉強に取り組めるように指導している。	66.7 100	家庭学習に関しては、児童・保護者の肯定的評価が共に高いとは言えず、定着に課題が見られます。今後、学期に1回ずつ「家庭学習バッチリ週間」を設定し、目標時間や内容を意識して家庭学習に取り組めるようにしていきます。ご家庭でも励ましの声かけをよろしくお願いします。
量 か な 心 の 育 成	いじめなし	いじめられたり無視されたりすることなく、安心して過ごしている	67.5 86.4	お子さんは、いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して過ごしている	60.4 89.4	子どもたちは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している	66.7 95.2	小さなことでも積極的にいじめと認知し、丁寧な事実確認と指導を行っていることが、児童の安心に繋がっていると考えられます。不安を抱えている児童を正しく把握し、ケアしていくためにも、各クラスで「自分も相手も大切にする」雰囲気づくりを行っていきます。また、スクールカウンセラーとも連携し、児童が相談しやすい体制も考えていきます。
	思いやり	友達に対して、やさしく話したり、行動したりしている	65.3 95.8	お子さんは、友達に対して思いやりの心を持って行動している	48.2 98.0	相手意識をもった思いやりのある言動ができるように指導している	70.0 100	児童の肯定的な評価は高いのですが、保護者のA評価は高いとは言えません。自分も相手も大切にする気持ちを育み、相手のことを考えた言葉遣いや行動ができるよう、授業や行事を通して継続した指導をしていきます。児童の良い姿を認め、優しい言葉がけができる児童を増やしていきたいと思ひます。
	あいさつ	友だちや先生、見守り隊や地域の方に気持ちのよいあいさつをしている	75.5 97.4	お子さんは、日常的に「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ただいま」などのあいさつをしている	71.4 96.9	自ら率先垂範であいさつし、友達、先生、来校者、見守り隊、地域の方に、気持ちのよい挨拶ができるように、指導している	57.9 100	あいさつについては、児童の肯定的評価が高く、保護者の評価も上がってきました。学校全体を見ても、自分からあいさつする児童が増えてきているのを感じます。しかし、自分に自信をもって大きな声であいさつできているといえない児童もいます。まず、教師自らあいさつし、あいさつ以外でも認め合いの場を多く設定して自己肯定感を高めていく必要があります。
健 体 や か 育 な 成	体力向上	体育の時間はめあてをもって、楽しくがんばれている	75.5 97.4			体育の時間等に、めあてを持ってねばり強く取り組めるように工夫している	57.1 100	多くの児童が体育の時間に自分の目標を持ち、進んで運動に取り組んでいます。後期は、マラソンやなわとび、グーパー体操（握力）の取組で体力向上を図りました。今後、動きのポイントを分かりやすく掲示したり、児童の良い動きを広めたりしながら、楽しんで体を動かす児童を育てていきます。
	生活習慣 （食への感謝）	感謝して給食を残さず食べるようにしている	83.4 98.1	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して生活している	37.6 82.0	感謝して給食を残さず食べるよう指導している	64.7 100	多くの児童が感謝して給食を残さず食べようとしています。各クラスで引き続き、給食に関わっている人が喜んでくれるような片付けの仕方を徹底していきます。また、栄養士と協力し、健康と食に関する授業を行いながら、児童が給食に感謝の気持ちをもてるような取組を行っていききたいと思ひます。
	自己有用感	「自分たちの学校は自分たちでよくする」という思いを持ち、係や委員会などの役割を果たしている	67.5 94.3	お子さんと話す時間をとっている	50.6 94.9	「自分たちの学校は自分たちでよくする」意識を持たせ、自分の役割を果たせるよう指導している（係・実行委員・委員会など）	57.9 100	後期は、たてわり活動や委員会活動、クラスの係活動で児童同士のよい関わりが見られました。自分たちで考え、自分の役割を果たそうと頑張っている児童の姿が多く見られました。今後、児童と教師が目的を共有しよりよい学校を目指して活動できるよう、教師も高い意識をもって指導を行っていききたいと思ひます。
の家庭 連携・地域と	情報発信			学校は、児童の活動の様子を日常的な連絡や便り等で伝えている	47.5 91.8	学校活動や児童の様子を、日常的な連絡や便り等で伝えている	22.2 100	各種おたより等のテトル配信が定着してきたようで、ほとんどの方にテトルを確認していただいています。急な連絡もすぐに届けることができ、大変便利ではありますが、情報過多にならないよう今後も重要度を考えながら配信していきます。後期は、ホームページの更新が滞ってしまい、ご迷惑をおかけしたのではないかと思います。毎月のおたよりで各学年の様子を知らせていくと共に、ホームページで情報発信を図っていききたいと考えています。

2. 学校運営協議会での主なご意見

- ・朝の見守りをしていると、子どもたちからあいさつしてくれるのが嬉しいです。「寒い中ありがとうございます。」と言ってくれる子もいます。数値だけ見ていると、できていないと思うかもしれませんが、今年は随分良くなりました。
- ・授業の様子を見ていると、自己決定すると子どもたちが活き活きしています。自分で決めることは、自分の行動に責任をもてるということなので良いと思ひます。
- ・自己有用感は大事だけど、とても難しいことですね。「どうせ、ぼくできんし・・・」と自分で諦めてしまっている時もあるので、ちょっとできることにもチャレンジしてほしいと思っています。
- ・放課後に忘れ物を取りに来ないのは、良いことだと思います。先生の負担が減ると同時に、子どもたちが自分で忘れ物をしないように気を付けるようになるので、良い方向に向かっていますね。
- ・情報発信については、おたよりやホームページで学校の様子を知らせる以外に、保護者がどんな情報を求めているのかを調査してみるのも良いと思ひます。手軽に写真を見たいという方もいらっしゃるが、写真をホームページに載せることは個人情報保護の観点から非常に難しい場合があります。先生との懇談会をもっと充実させたり、地域と子どもをどう育てていくのか共有したりすることができればいいのではないのでしょうか。

学校運営協議会のみなさん
ありがとうございます！

運営協議会 会 長 梨木 精一 様
運営協議会 副会長 吉川 優子 様
運営協議会 委 員 今村 恵子 様
運営協議会 委 員 山本 洋平 様
運営協議会 委 員 盛本 喜治 様
運営協議会 委 員 喜多 佳代 様
運営協議会 委 員 木村 牧子 様